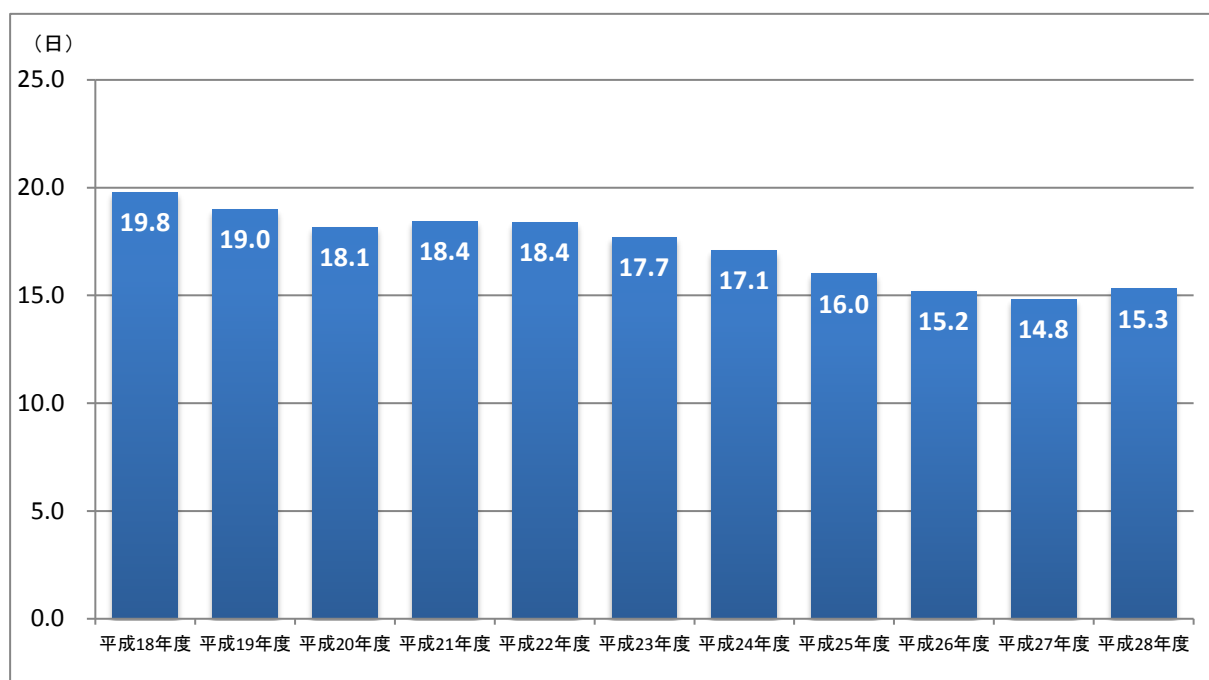


2 9 . 平均在院日数



病床稼働率と同様に病院の経営指標の一つである平均在院日数は、どの施設においても重要な指標として、注目される項目である。また、国が打ち出す方針では、病院機能分化として急性期病院の平均在院日数は、更なる短縮を推進する傾向にある。

当院においても平成 23 年度以降、緩やかに短縮しており平成 27 年度には 15 日以内となった。しかし、平成 28 年度においては、15.3 日と前年度と比較し 0.5 日増加した。

また、当院は他の私立医科大学病院、近隣の大病院と比較しても平均在院日数は長く、DPC 算定の機能評価係数における効率性指数は低い評価を受けている。

急性期病院としての役割を果たすべく、クリニカルパスの利用を推進し、医療の質を担保した上で、病床稼働率を向上し、在宅復帰へ向けた取り組みとして平均在院日数の短縮を推進する必要がある。

データ提供 医療事務部入院医事課